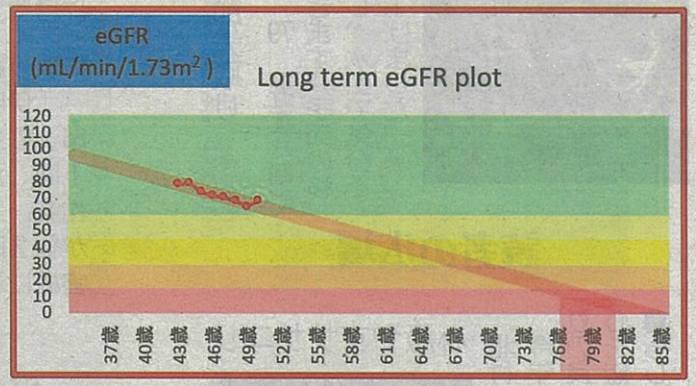
読売新聞 しが県民情報

意見・情報提供などは編集室へ
電話 077・522・5602、5507
ファクス 077・522・5589
Eメール o-siga@yomiuri.com

腎機能の能力を表す数値「ｅＧＦＲ」の数十年の推移を一括表示し、透析のリスクを見通す図表「Ｌｏｎｇ ｔｅｒｍ ｅＧＦＲ ｐｌｏｔ」（ＬＥＴＰ＝エルテップ）を市立大津市民病院内科・血液浄化部の中澤純診療部長が考案。それを使い、県内の８診療所の協力を得て臨床研究を始めたところ、長期間、腎機能が低下し続け、放置すれば90歳代までに透析に至る患者が11.2％いることがことがわかり今月、日本腎臓学会で中間報告した。（土屋康代）

50歳代前半の男性の人間ドックの受診結果（左）を基に表した「エルテップ」（右）

血中脂質検査	総コレステロール			
	中性脂肪			
	HDLコレステロール			
痛風検査	尿酸			
腎機能検査	尿素窒素			
	クレアチニン			
	eGFR	68.3	64.9	68.3
膵臓機能	アミラーゼ			
糖尿病検査	血糖			
	グリコA1C			



大津市民病院・中澤純診療部長 透析リスク見通す図表考案

8診療所協力 臨床研究

やすらぎ コンシェルジュ

「ｅＧＦＲ」は年齢、性別、血液検査による血清クレアチニン値から推算。数値60未満で慢性腎臓病が疑われ、同10未満で透析を要する直前とされる。中澤部長は「既存法では１年程度の『ｅＧＦＲ』の推移の観察で診断し、腎機能の悪化が見逃される恐れがある」と指摘する。

同院の人間ドックで受診した50歳代前半の男性は、「ｅＧＦＲ」の直近の数値が68.3、64.9、68.3で、受診した８回全て正常と判定。しかし、「エルテップ」に過去に遡って40歳代のデータを入力し、85歳までの透析のリスクを見通すと下降線を示し、将来透析に至る見込みとわかった。

中澤部長は「早期に介入すれば透析を回避、先送りできるだろう。

「エルテップ」を考案した中澤部長

『ｅＧＦＲ』の長期の推移を観察するシステムの構築に奮闘してきた」と語る。

◇

中澤部長が研修医だった04年ごろ、他科から引き継いだ患者が１年ほどで透析を要するようになり、「なぜ、こんな早く」と疑問に思った。当時は「ｅＧＦＲ」の概念はなく、腎機能を表す数値の長期推移を一括表示すると、引き継ぎ前から腎臓が悪化し続けていたことが判明。この際、中澤部長は、長期推移の観察の重要性を痛感したという。

11年から同院、滋賀医科大の腎臓内科で患者の診療に没頭。16年に再び同院に戻り、時間を見つけては、表計算ソフト「Ｅｘｃｅｌ」に患者1600人の「ｅＧＦＲ」を入力し、長期推移の一括表示に努め「エルテップ」を作成。18年に診療情報技師の協力で、それをシステム化し、院内の全診療科で使用を始めた。

中澤部長は全国に広めようと16年から数年間、電子カルテメーカーや、医療機器の見本市などに提案書を持ち込むなどし、ようやくシステム計画研究所（東京都）の目に留まった。そして22年、中澤部長が研究責任者として臨床研究を始めた。

県内の８診療所の協力で提供される500症例をメドに、腎機能の低下の人数、期間を調べ、「エルテップ」を用いたシステムの構築などを同研究所に業務委託。今月、日本腎臓学会学術総会で２診療所の206症例に関し中間報告。中澤部長は「基幹病院へ紹介される前に長期間腎機能が低下し続け、放置すれば将来透析に至る見込みの症例が11.2％存在した」と話す。

◇

「エルテップ」は、全国の医療機関、薬局、自治体など345施設で導入され、同院では人間ドックや健康診断で５回以上の腎機能測定を行うと、その結果が報告（無料）される。

2023年7月5日　読売新聞　　訂正あり：上記４行目（誤）『LETP』（正）『LTEP』